

## 「こいつぁ～春から 歌舞伎研修！」 ～歌舞伎座で来日観光客向け説明をマスター～

2017年1月17日（火）（一社）日本観光通訳協会  
第一支部研修レポート

1月17日（火）中央区築地4丁目の東劇ビル内の松竹株式会社様のご協力のもと、国もライフスタイルも違い、歌舞伎への予備知識の無い来日観光客にどのように歌舞伎を説明するかをテーマに「歌舞伎研修」が開催されました。

参加人数は60名（JGA会員52名、非会員5名、運営委員3名）。一度歌舞伎座で観たかった、と、広島や愛知など他県から駆け付けた参加者もいらっしゃいました。

当研修は、松竹株式会社 演劇開発企画部 演劇ライツ室の温井秀哉様の推進のもと企画が進められ、当日は三部構成で実施されました。第一部は講義で、演劇ライツ室長の窪寺祐司様より歌舞伎の基礎知識と当日上演される演目の背景について、また、演劇製作部 芸文部の衛藤蘭様より実際に来日観光客を英語でガイディングされた時の様子や、よく聞かれる質問、大向こう、男性しか出演しない理由、能と歌舞伎の違い等についての説明がございました。



第二部は歌舞伎座タワーの見学です。5階には歌舞伎グッズの「楽座」、歌舞伎役者に扮して写真撮影が出来る「スタジオアリス」、歌舞伎に使用される小道具や着物の展示で初めての方も歌舞伎に馴染んで頂ける「歌舞伎座ギャラリー」、隈研吾設計で2000本もの竹が使われている和カフェ「寿月堂」、屋上庭園があり、四階回廊には第一期から第四期までの歌舞伎座の模型や懐かしい役者のパネル写真などが展示されています。



第三部はいよいよ歌舞伎座での観劇です。1月の夜の部の演目は第一幕：「井伊大老」、第二幕：「越後獅子」「傾城」、第三幕：「松浦の太鼓」。正月とあって、松本幸四郎、片岡愛之助、坂東玉三郎、市川染五郎といった豪華な役者陣の見応えある演技に、参加者も歌舞伎の魅力に酔いしれて、大満足のめでたい研修と相成りました。